

イギリス在住、福岡出身のアーティストが母校で 「不登校」テーマの個展&ワークショップ開催

2025年3月27日
大淵 園子

イベント名：「イギリス式アートで遊ぼう！」～子ども向けワークショップ&個展～

[目的]

このイベントは、福岡出身のアーティスト大淵園子がイギリスで子どもの不登校やうつ病を経験した実体験をもとに、アートの力で心を解放し、新たな可能性を見つけることを目的としています。イギリス式アート教育を取り入れたワークショップを通じて、子どもたちが自由に表現し、自己肯定感を育める場を提供します。

また、個展『止まった時間、描き出す未来—不登校家族の3年』では、不登校の葛藤と回復のプロセスを作品に込め、不登校への理解を深めるきっかけを創出。母校・旧大淵小学校での開催を通じて、地域の子どもたちに創造する喜びを届けます。

[イベント概要]

- ・ 日程：2025年5月25日（午後1時～3時）
- ・ 場所：げんき館おおぶち（八女市黒木町大淵3998）

[イベント内容]

- ・ 【アートワークショップ】イギリス式アート教育を取り入れた体験型ワークショップ（7～15歳対象、親子参加可、無料）
- ・ 【個展】『止まった時間、描き出す未来—不登校家族の3年』 不登校期間の苦しみと回復をテーマにした自身のアートの展示

[イベントのポイント]

- ・ イギリスと日本の「不登校支援」の違い（教育現場の実践&課題）
- ・ 不登校経験者の親としてのリアルな体験談
- ・ アートが持つ「心のケア」の力（自身のうつ経験をjえて気づいたこと）
- ・ 5月の不登校増加傾向と日英の共通点（日本＝GW明け、英国＝イースターホリデー後）
- ・ 母校での開催という意義（幼少期を過ごした場所での挑戦）
- ・ 福岡という土地への感謝と、地域の子どもたちへ届けたい思い

コロナ禍で長男は不登校とうつ病に苦しみ、私自身も気づかぬうちにうつを発症しました。乗り越えられたのは、アートの力のおかげです。

イギリスでは不登校への理解が乏しいものの、アートが息子と私の回復に大きく貢献しました。学び、表現し、心を解きほぐす時間が救いでした。今回、その経験を活かし、福岡の母校・旧大淵小学校でワークショップを開催できることが楽しみです。イギリス式のアート体験は、「うまく描くこと」よりも「過程を楽しむこと」を大切にします。自由に表現し、発見し、ワクワクする——そんな体験を子どもたちと一緒にできたらと思っています。アートには、前に進む力がある。このワークショップが、その一歩になれば嬉しいです。

[大淵園子・プロフィール]

- ・ 福岡県八女市黒木町出身、イギリス在住25年のアーティスト
- ・ 村上春樹の舞台作品でビデオデザインが国際的に評価されノミネート
- ・ 英国王宮アーティスト（ロンドン塔・ケンジントン宮殿）として実績
- ・ イギリスの支援学校でアート教育に従事、PGCE（英国教員資格）取得
- ・ 不登校でうつ病のトランスジェンダー息子を支えた3年間
- ・ 2025年3月に英紙ガーディアンに自身の「不登校の親」としての体験インタビューが掲載される



[取材・お問い合わせ]

E-mail: sonoko.obuchi@googlemail.com Website: <https://www.sonoko.co.uk/>

ご関心がございましたら、詳しい資料をお送りいたします。どうぞよろしくお願いいたします。